

第 10 回 新石垣空港小型コウモリ類検討委員会 議事録

日時：平成 26 年 6 月 20 日（金） 14:00～15:30

場所：八重山合同庁舎 1 階第 1・2 会議室

(1) 開会挨拶

事務局：定刻になりましたので、「第 10 回新石垣空港小型コウモリ類検討委員会」をはじめさせていただきます。本日は、議事次第での案内のとおり、14:00 から 15:30 までの 1 時間半の予定です。しばらくの間進行役を務めます。

それでは、開会に当たり、事業者を代表して、沖縄県 土木建築部 八重山土木事務所 添石 所長から挨拶させていただきます。

事業者：只今ご紹介いただきました。今年度 4 月から八重山土木事務所長を努めております。添石と申します。どうぞよろしく申し上げます。第 10 回 新石垣空港小型コウモリ類検討委員会の開催にあたりご挨拶申し上げます。各委員の先生方の皆様におかれましてはたいへんお忙しい中、本日の委員会にご出席を賜わりまして、心より感謝申し上げます。新石垣空港の建設については、これまで振り返りますと、環境問題がクローズアップされたこともあり、赤土等流出防止対策を徹底など自然環境の保全に十分配慮して実施してきたところでございます。特に事業地及びその周辺地にある 5 つの洞窟において、3 種類の貴重な小型コウモリの生息が確認されており環境影響評価の手続きにおいては、国土交通大臣よりその保全等に万全を期すようにというご意見をいただきました。それを受け、事業の実施にあたりましては、平成 18 年 9 月に本委員会を設置し、小型コウモリ類に関するモニタリング調査の結果を踏まえた環境影響の回避、低減措置について委員会のご指導、助言をいただきながら推進してきたところでございます。このような経過を得ましてお蔭様をもちまして、新石垣空港は昨年 3 月 7 日に開港を迎えることができ、平成 25 年度の入域観光客数は 94 万人という報告もでございます。これまでにない数字を記録するなど、八重山景気の振興に寄与するものと考えております。今回の委員会では、新石垣空港開港後のモニタリング調査結果について、初めてのご報告となります。本日は、これより昨年度のモニタリング調査結果のご報告を行いまして、それに対する環境影響評価の回避・低減についてご指導ご助言をいただき、その後、今年度のモニタリング調査計画についてご説明させていただきたいと思っております。どうぞ先生方の闊達なご意見・ご指導を賜りますようお願いを申しあげまして、簡単ではございますが挨拶にかえさせていただきます。どうもありがとうございます。

(2) 配布資料の確認

(3) 委員及び事業者の紹介

(4) 委員長挨拶

委員長：こんにちは。私は石垣出身ですが、ここにはめったに来ません。1 年に 2 回くらいだと思います。1 回はこの委員会です、もう 1 回は昆虫採集の調査で来ています。石垣に来るときはいつも故郷だという気持ちで来ていますが、新空港ができてからは、どこを通ったか分からないくらい環境が変わっています。今までは、ほとんどさとうきび畑でしたが、最近は牧草も増えて景色もだいぶ変わっています。それでも八重山の自然というのはかなり変化していますが、その中でも八重山らしいところがチラチラ見えて安堵しました。こ

の委員会は、去年で小型コウモリ類に対する空港の騒音の影響というのはほとんどないというのが判明しました。そして今回からは小型コウモリ類が確かに生息できる環境にあるかどうか、コウモリ類の餌昆虫がふんだんにあるかどうかということ、そういった面について調査していかなければいけないだろうと思っています。今月初めに糞の分析の依頼がきました。10日間かけてやっと分かりました、というのは、幼虫が多かったです。幼虫というのは、形が整っていないので同定が難しいです。それでもある程度データが出ました。しかし、秋の糞分析もしないといけませんと思います。というのは、秋に昆虫の種類がたくさん出てきます。しかも成虫です。そこで調べて、やっと小型コウモリ類の糞分析が終わったといえると思っています。今年も頑張ってください、秋の小型コウモリ類の糞を採取して下さるようお願いしたいと思います。今日もコウモリ類が生息している洞窟周辺の植物の葉を見ました。どういった昆虫が食べているかということ、やはり周辺は葉虫がたくさんいるだろうと思っていましたが、葉虫の食痕は少なく、コガネムシ類の食痕がたくさんありました。そういったことから、今年の秋に小型コウモリ類の糞が採取できれば、だいたいのことが分かるのではないかと思います。それでもう一頑張りしたいなとそういう気持ちで今日は出席しました。幸いして皆が協力的なので、その事業はだいぶうまく遂行されるだろうとそう思っております。そういった点で今後共調査の方よろしくをお願いします。そして、モニタリング調査は3年程度としています。来年度で3年目なのでそれに向けて皆で頑張っていきたいと思っています。それをもって挨拶とかえさせていただきます。よろしくお願いします。

(5) 資料1 事業実施概要の説明(事業者)

委員長：資料1について審議をお願いしたいと思います。

委員：工事するときに、C洞窟、B洞窟は洞口を新しく造り直しました、その結果コウモリが入り込めるようにはなっていると思います。せっかくそうしたのだから、その結果も書いたかどうかと思います。実際に調査はB、C洞窟もやったと思いますから。それはグラフではよく分からないので、具体的にどのくらいですか。CとBは実際利用していたのですか。

せっかくそういう形で保全措置対策をやったので、人工洞ばかりではなく、その結果も記載したらどうだろうかということで質問します。

事務局：各コウモリ、各時期において利用の確認はされています。B洞窟においては、1～10個体程度、C洞窟においては、1～2個体程度の利用が確認されています。

委員：それは、この2、3年間の個体数の変動として、増えているのか増えていないのかお聞きしたい。今の個体数は、昨年度の結果だと思います、今まで注目していなかったのですが、いつから住むようになったのですか。

事業者：ここ2、3年だと思います、保全対策工事を施した後は、さほど大きな変化はなかったと思います。

委員：わかりました。せっかく保全対策をやったので、人工洞ばかりではなく、これもそれなりに努力したので、その結果を記載したらいかがかと思います。

事業者：はい、わかりました。

委員長：A～Eの洞窟に限って調査していますが、コウモリ類は常に移動しているので、石垣島全

体の洞窟を調べないと何とも言えないと思います。

委員：補足すると、全体で個体数が減っていないということでは安心できますが、工事をやった結果がどうなったかというのを表しておく必要はあると思っています。例えば A 洞窟や D 洞窟が、ほぼ考えたとおり影響はなかったとか、一時、工事中は影響があったけど、やはり戻ってきたとか、そういうのはやはり明記する必要があると思っていますが、もちろん、全体は大事です、そのほかに工事をやったからどうなったかというのは後々、皆さんにも分かるようにしておいた方がよいと思っています。

委員長：そうですね、後々の参考のためには情報あることはよいことですが、それだけ時間が多くかかると思います。ですからそれにはあまり時間をかけないようにして、全体としてのデータをまとめた方がよいと思います。

委員：調査は、A～E 洞窟も含めて石垣島全体でやると思います。個体数を合計するときに、5 洞窟と石垣島全体とで区切ってやるだけです、時間は変わらないと思います。

委員長：それでしたらよいと思います。

委員：p 17 の図をみると、平成 15 年度と 20 年度の変動数が大きいです。もしかしたら、この年は繁殖時期がずれて、まだ A 洞窟にいたけれども、調査の後に繁殖するような場所に行ったというように考えて、出産哺育期に A 洞窟にいるのは基本的には 200 前後ということになれば説明ができるのではないかと思います。そうしないと、なぜ平成 20 年度は多いのに減ったのかといわれてしまうので、平成 15 年度と 20 年度の結果を考察し直して、私のいっていることが伺えるのであれば少なくとも推測さえしておけば、そんなに変化がないなということもいえると思いますので、そういう検討もお願いします。

委員長：本当に、平成 15 年度と 20 年度は個体数が突出しています。

委員：補足しますが、ユビナガコウモリは、石垣島でまだ今のところ、繁殖洞窟が見つからないです。石垣島で繁殖しているのかも分からない。だけど、繁殖の時期の前まではいます。A 洞窟を利用して、出産の時に移動する。逆に言えば、一晩や二晩でいなくなってしまうということがありますので、あとは繁殖に関係ない個体が残るということで残っている数が 100～200 前後ということの方が可能性が高いと思っているのですが、そのような考察や推測でもよいので、記載の検討をよろしくお願いします。

委員長：そのほか何かありますか。

委員：先ほど、モニタリングは 3 年という話がありましたが、影響があった場合、打ち切れないのではないのでしょうか。一定程度環境が落ち着いてきたという判断ができれば終わってもよいですが、そうでないとまずいと思いました。3 年と決まっているのですか。

事業者：3 年と決めているわけではありません、3 年間まず調査をして結果を見て続けるか続けないかを決めていきたいと思っています。

委員：とりあえず 3 年ということですね。分かりました。ありがとうございます。

委員長：ほかにありますか。

委員：先ほど言われた p 17 ですが、平成 15 年と平成 20 年の個体数が多いので、そういう可能性ということと言われたのですが、そうすると平成 25 年度はどういう意味になりますか。

委員：例えば、この年の繁殖時期が遅かったので、この調査の後に繁殖場所に行ったのではないかと、一週間後に調査したら、200 という数になっていた可能性もあるということで、

実際調査した時の様子をみないと分からないですが、あるいは琉球列島のどこかの場所で繁殖の時期がどうだったかをみれば、もう少しはっきりすると思います。

委員：それが4年置き位になっていますが、その年だけですかね。

委員：何年置きかは分からなくて、ユビナガコウモリについて、西表島で調査をやっていましたが、やはり年によってズレます。一週間なんて当然ですが、もっと2週間位ズレます。コキクは特にズレたりしますので、そこにずっといるのではなくて、繁殖の時に他所に行ってしまうので、今こういうことが起きてもおかしくないというのがあります。それはその時の気象状況からみてみないと分からないです。同じ日にコキクもみてみるとか、例えばコキクがいつもよりも産まれて間もない時期の個体数が多かったとか、そういうのが一つでもあれば少しは推測できると思います。

委員：それしかほかに今のところないですね。

委員：人工洞の温度ですが、温度差なくなってきて本当に環境が落ち着いてきました。特に夏は低くなくて、冬は暖かくなっていると、洞窟らしい温度にはなっています。そうなるべくるといつ使っていただいてもよいような条件は整っているような気がするのですが、少なくとも環境条件は基本的にはかなり整ってきていると思います。

委員長：p 46に平成24年10月に台風が来て、そのために草が枯れています。その時の台風の影響というのは多分餌に大きな影響が出たと思いますが、コウモリには影響は出なかったですか。それは分かりにくいですが、台風中には期間を短くして何回か調べた方がよいだろうと思います。その現況を把握すると、今後の資料として役立ちます。

委員：場所を教えてください。p 32-33になりますけども、A洞窟からNo.11に大量に移動していますよね。No.11というのは、ヘギナーの平和学習で使っている場所ではなくてそこから西に上がって離れたところですね、東側の発電機が設置されていた場所ではないですか。

事業者：違います。

委員：新しく植樹したところと、従来林があったところの餌昆虫の個体数の調査の比較ですが、従来あった林よりも植樹した方のところが多かった。そういう結果の方が多とおもいますが、それはどう考えられますか。

委員長：それは植樹したおかげでそれだけ植生の多様化が進んだということがいえると思います。それで餌も多くなった。

委員：植樹したのは限られた木ですから、元の林の方が昔からあるからいろいろな木があるから反対ではないかなと思いますが違いますか。

委員長：植樹するとそれだけ増えると思います。

委員：以前からある木も多いですよ。

委員長：以前のもありますが、更に植えていくわけですから、多分以前はむしろ草地ではなかったですか。あまり木がなかったところに木を植えていくと、その分、森林も階層構造が進んで、それだけ餌昆虫も増えていくと思います。

委員：ボックスカルバートを移動経路として利用しているのは、おもしろい結果だと思います。p 54-55、p 54はコキクの場合、-54だから入ったのが多く、出てこなかった。それが東側の入口から68出ているから、引けば元々この洞窟にいたのはコキク14個体で、後は此処から入ったので、そうすると、通路として使っているのではないかということで、なかな

かおもしろい結果で、せっかく利用するなら、ここで留まるようなことを考えたらどうかと思います。そうなってくると、夕方日没の時の調査で、帰るときにはどこを通っているのでしょうか。やはり帰るときもボックスカルバートを通るのであれば、このボックスカルバートを出て行って他の洞窟に行かないまでも、ボックスカルバートの中で昼を過ごすように仕向けられたら、もっとコキクが増えるのではないのでしょうか。

委員長：そうですね、もう少し何回か来て調べてみないと分からないと思いますね。

委員：前回の委員会でも話しましたが、人工洞の利用状況について、環境もほぼ落ち着いてきたということで、入ってもおかしくないという状況ですので、それほどいない原因は、推測ですが、温度を測るために入洞していますよね、この際思い切って6ヶ月以上もしくは1年以上、人が入らずに放置しておいた方がよいということで前回の委員会でも話しましたがどうでしょうか。議事録にもありますが、ヘギナーの人工洞は、平和学習でいつも使っていて、平和学習の以前は、ヘギナー洞窟は全く誰も入りませんでした。その後終戦50年というので、あちこちの洞窟を戦跡ということで入りだして、ヘギナー洞窟もそうですが、それと東側の発電機施設が置かれていた洞窟、そこにも結構コウモリがいたのですが、毎年平和学習で利用していますので、それ以後全くいないです。西側は、特殊地下道ということで金網を張って人が入れないようにしていますが、No.11もたくさん入っているということです。そういうことから考えれば、人工洞も思い切って6ヶ月、もしくは1年、それ以上全く人の出入りを断ればコウモリも入ってくるのではないかということですがいかがでしょうか。

委員長：人工洞は人が頻繁に入ってくるってことはないのではないですか。

委員：県の敷地ですから、一般の人はもちろん入れないと思います。ただ、モニタリングのために調査員が定期的に入ります。

委員：極力減らすということで、例えば、調査は入って県の人が入るのはやめるのはどうですか。

委員：関係者も含めて半年以上または1年以上。

委員長：人があまり入らないようにすることは当然です。

委員：温度・湿度のデータはすでに何年か取られていますから、この際思い切ってということです。

委員：人工洞の利用について一つだけ知っておいた方がよいのが、コウモリは結構保守的です。一度利用したらずっとそこを利用して、例えばC洞窟、一回天井を壊しましたが、そういう時のごく僅かな隙間にコキクがしばらくの間いたという経緯があります。非常に条件が悪くなっているとは思いますが、だから、今は人工洞を使う必要がないからというか、他にもよいところがあるから、人工洞にいないという側面もあると思います。一概になかなか人工洞をコウモリが使わないからといって、よい環境つくったのにとついつい思っていますが、どうしようもない側面もあります。例えば10年位このまま来ない可能性もあります。どうしても他の洞窟の環境が悪くなって、困ってしまえば入ると思いますが、それまではやはり利用しない可能性も非常に考えられます。

委員：今の件ですが、私も今日見ていろいろ考えましたが、温度・湿度等は洞窟の上の木も生えて落ち着いていますから、今言われたように、1年は完全に一切入らないということは

一案だとは思いますが、それともう一つは、ボックスカルバートののですが、あそこは柵がありましたね、コウモリは柵を越えて入りますが、人が入らないのであれば、ゴミ等が引っかけたりするので、取っ払った方がよいのではないかと思います。これまで人が入ったような形跡はありますか。

事業者：それはないと思いますが、入る可能性がゼロではないので、警備のために取り外すのは難しいと思います。

委員：それでは仕方がないですね。

委員：もう幅を30センチ近く位のメッシュにしてはどうかと思いますが、コウモリは縦でも横でも通ります。少々細かくなってもあまり関係ないですが、それでもやはり何かあると嫌がります。

委員：この網目の寸法はどうやって決めましたか。

事業者：この時はコウモリが通る前提ではないので、それを考えた大きさではないです。

委員：今度測ってみて、できたらもう少し広くしても、人が入れないでコウモリが通れる大きさにしたらどうですか。

委員：管理上問題なければ、どうですか。

委員長：時間もないようですので、資料1の方は終わりたいと思います。次は資料2の方にいきたいと思います。

(6) 資料2 平成26年度 モニタリング調査計画の説明 (事業者)

委員長：資料2についてご検討お願いしたいと思います。何か聞きたいことはございますか。

委員：今日見た一番北の植樹のところですが、どうした方がよいと思いますか。放っておいても生えてくるということもあるでしょうが、少しでも植えるか、あるいは活着している木もあると思うので、それをもう少し早く成長するような方法何かないですか。

事業者：促進する方法というのは難しいと思いますが、昨年度、そちらについては生育が悪いということでご意見いただいて、必要ならば植え替えということも考えているところです。

委員：何本かは生きているので、あれが大きくなれば、少なくともコウモリの通路としては機能すると思います。

事業者：計画としては昨年度いただいたご意見を参考に、面的にやるのではなく、ある程度帯的に餌場まで経路を確保できるような形であればよいのではないかとということで、樹木について調べてみると、ガジュマル、フクギがかなり残っていることが多くて、元々ガジュマル、フクギについては自然にそこに生えていた樹木でもありますので、これらを主体に帯状の植樹をするということで考えてはいますが、ただ移動経路については他の場所も確認されていますし、ボックスカルバートが新たに移動経路ということで確認されていますので、現在、生育の悪いグリーンベルトについては、後々長い期間でみれば何らかの形で生えてくるとは思いますので、植え替えをして設けた方がよいのか、この辺が私達事業者としてもその辺どうした方がよいかということをご意見として聞きたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

委員：モニタリング調査に入っていなかったのが提案しました。

委員長：フクギとガジュマルが成功しているということですが、ホルトノキは全部ダメになってしまったということですが、この周辺にオオバキやシマグワを植えたらどうですか。フク

ギはコウモリの餌となる昆虫がほとんど付かないですが、ガジュマルは付きます。ホルトノキもあまり付かないです。シマグワ、オオバキやクサギとか周辺にある木でよいです。

事業者：オオバキに関しては植樹の対象になっていません。ガジュマルとシマグワに関しては、この委員会の意見等もありまして、小型コウモリの好む虫が付く木としては対象外になっていますが、ガジュマルの方は生育状況がよいということで、検討対象になっているという状況です。ホルトノキはほとんど生存していないですが、全くないというわけではなくて、0.1%弱から8%の間で生き残っているものもあるということです。ガジュマル、フクギに関しては半分かそれ以上という生存率で、土壤に適した木ということでよいのではないかとということで提案しています。

委員長：フクギやホルトノキは、コウモリの餌となる虫がつかないです。シマグワとかオオバキ等の昆虫が付く木がいいと思います。

委員：今の植樹の件ですが、最初に見たところですが、土地が荒れているからなかなか着きにくいので、下草がもう少しあれば着くと思います。それと今言われたように、イヌビワとかクワ等がよく着いて、それが成長すればその辺りの環境も守られるから他の樹木も自然に生えてくることあると思います。

委員長：そうですね、イヌビワやシマグワもよいと思います。

委員：あの小さい木を植えた時期はいつですか。

事業者：平成25年3月です。

委員：3月なら生育が悪いことはないと思いますけどね。

委員長：ハマイヌビワやモクイヌビワもよいです。周辺にある種類で植えるということでよいだろうと思います。

委員：植物に関しては、亜熱帯の石垣ですから、そのまま放っておいても多様な植物がどんどん生えてきて、その内5~10年経つ間に周辺のジャングルと同じような形になってくるとは思います。急ぐのであれば、植えた業者に植えたけども枯れているということで、植え替えの契約があると思います。

事業者：現在、確認中です。確認でき次第、ご報告致します。

事務局：平成26年度のモニタリング調査項目でご意見いただきたいことがございまして、当歳仔調査、リュウキュウユビナガコウモリについて出産哺育洞が見つかっていないということで、先程もございました、個体数にばらつきがあるということで、補足調査で、平成22~24年まで当歳仔調査ということで8月末、リュウキュウユビナガコウモリの出産後に飛翔できる幼獣の個体がいるかどうかということで、各洞窟で子供の個体を確認するという調査をやっていましたが、これについて平成26年度はやったほうがよいか、やらなくてもよいということのご意見をお伺いしたいと思います、よろしくお願ひします。

委員長：やった方がよいだろうと思いますが、問題はその調査の人数とか費用とかそれだけかかってきますからね、それをどうするかということです。

事業者：予算上の問題は今のところ問題はない範囲ではあります。

委員長：分かりました。

事務局：ただ、平成22年、23年と順調に子供の個体数は多かったという点と、どうしても当歳仔調査ですので、直接的なリュウキュウユビナガコウモリの出産哺育がきちんとされてい

たという証拠にはなかなかかなりづらいというところもあって、補足調査という位置付けであったというところがあります。

委員長：1、2年の調査では補足調査という形にしかならないと思います。

委員：子供がその年に生まれたから当歳仔とされているわけで、どこで生まれたか分からないだけで、今年もきちんと出産・哺育したというのは調査した方がよいと思います。

委員長：そうですね。

委員：本当はどこで産んでいるかというつきとめる調査は、石垣島はかなりやり尽くしているので、西表島でという話もありますが、規模が大きくなりますので、きちんと今年もどこか分からないけど、無事繁殖成功していますというのを出しておいた方が、後々のためにはよいと思います。

事務局：それにつきましては、p 17にリュウキュウユビナガコウモリの出産哺育期というところで、工事前、工事中、供用後の個体数がございまして、今までの調査ですと工事前の 100～1,000 の範囲内であれば順調に出産・哺育しているだろうということで平成 25 年度には 210 というところで、その変動幅内であると考えてはいます。

委員：なぜ当歳仔にユビナガコウモリの調査をしたかということ、当初 C 洞窟で繁殖していたのではないかという意見が外部からあって、C 洞窟が天井取っ払ってなくなったので、そうなってくると石垣島で繁殖している洞窟はないので、滅ぼしたのではないかという疑いを持たれてしまって、この調査では、C 洞窟でも A 洞窟でも出産・哺育しているけど見つからないだけだと意見を言っていました。それに対して A 洞窟で繁殖しているとか C 洞窟で繁殖しているとか言われたわけです。それで対向するために当歳仔を確認してどこかで出産・哺育しているだろうということで、一応 2 年やってどこで繁殖しているということですが、コウモリは結構長生きします、だからもし 1 年位繁殖しなくてもすぐには滅びないと思います。寿命が長いみたいで、毎年 1 回は繁殖するので、そんなことを考えると何年間かは調査をやっておいて、今年も繁殖しているというのをきちんと明らかにしておいた方が後でクレームを言われなくて済むと思います。

委員：今言われたように、移動期でも平成 23 年、24 年と 500 位上がっていますので、相対的にはいると思いますから、繁殖洞窟が分かればよいですので、調査ができればよいと思います。前から言っていたことで、議事録にもありますが、展示パネルをぜひ作って欲しいということを何年間か言ってきました。とにかくこれだけのことをやっているのですから、現状でよいですから、ブースやパネルを作って頂いて、それはまた後々県のためになると思います。毎年毎年ではなく、何年かごとにやって頂くと流れは読めると思います。7 年後、10 年後に調べたらやはり落ち着いていたなど分かればよいと思います。10 年後にはいなくなったでは困ります。だから年は区切りますけども 5 年 7 年 10 年に 1 回ずつ計 3 回やっておかれたらこれまでのせっかくやった調査結果が無駄にならないと思います。飛行場を造るためにはこの調査でよかったですけれども、造った後のこともフォローして頂くことを県も検討して頂きたいと思います。

委員：今言われた、空港に展示されるのが一番よいですが、最悪の場合、石垣市にどこかそういう場所とか検討して頂いて。本当は、空港が一番よいですよ、使っている人がみればベストですが、どうしても県が検討した結果、難しいのであれば石垣市のどこかで展示する

場所はありますか。長期間、特別展とか1回空港でやって、それくらいなら空港だったらまた戻せるということも考えられるので、これだけやったのにそのままではもったいないと思います。

委員：報告書だけで終わりではなく、これをPRすることも新石垣空港の重要性をPRすることになると思います。そういったブースを一箇所くらいあると他のビオトープ等も含めてあるとよいと思っています。

事業者：ご意見ありがとうございます。それにつきましては、そのブースは維持費・維持管理とかその辺の問題もございまして、管理会社とも調整させて頂いて検討させていただきたいと思います。よろしくお願いします。

委員長：最後に、私のところにコウモリの糞の同定依頼がきました。結果が資料にあります。春は、幼虫が多く分かりにくいので、種類が少ないです。しかし、秋になると成虫が多くなりますので秋に採取した分を同定するとよくわかると思います。以上です。

事務局：ありがとうございます。秋も糞を採取しますので分析をよろしくお願いします。

事業者：皆様、長時間ありがとうございました。本日の委員会の結果を踏まえ、委員長、前田副委員長と相談しながら、モニタリング調査を進めて行きたいと思います。調査中に何かありましたら、委員の皆様にご相談させて頂きたいと思います。結びになりますが、当委員会を今後も継続し、先生方のご指導、ご助言をいただきながら、小型コウモリ類の保全策等に万全を期したいと考えておりますので、引き続き宜しく願いいたします。次回の委員会については、今年度の調査結果を整理したうえで、来年6月頃を予定していますので、改めて連絡させて頂きたいと思います。

事務局：それでは以上を持ちまして、第10回新石垣空港小型コウモリ類検討委員会を終了したいと思います。長時間ありがとうございました。